

平成 23 年 7 月 5 日

ビックパレットふくしま 災害派遣ボランティアに参加して

財団法人積善会 曾我病院  
田代 誠 茂内 健次

派遣日：6 月 27 日（月）～7 月 2 日（土）

内 容：深夜業務（0：30～9：00）

私たちは、震災 109 日目に「ビックパレットふくしま」に入りました。特に、津波で家がなくなった方というより、原発によって避難をせざるを得ない（家があるのに帰れない）方が殆どであったかと思います。

郡山市は、何事もなかったのかのように日常生活が遂行されている反面で、「ビックパレットふくしま」に足を踏み入ると、その一画だけが別世界と言っても過言ではなく現実に震災や原発の問題が起きているという事実を受け止めるきっかけになりました。たとえば、放射能測定値が表示されている機器があること、いたるところにダンボールで囲いを作って寝泊まりしている状態、仮設の役場、自衛隊の災害派遣（入浴）、隣接されている仮設住居、演芸舞台の設置などを目にするだけでなく、実際に「明日一時帰宅なんだ」と話していることなどです。これらは、メディアで知ったり計画停電を体験していたにも関わらず、直接肌で感じることは、まさに“百聞は一見にしかず”でした。

直後の避難者は 2500 人を超える状態だったそうですが、700 人弱と減少しており、隣の敷地には仮設住居が並んでいるのが印象的でした。つまり、救護所は超急性期・急性期から脱し、避難者の自立という側面へと転換されている時期でした。これは、我々が行った 1 週間でもその様相はめまぐるしく変化し、4 日後の 6 月 30 日には避難者が 550 人を切ること、6 月一杯で広島県の医療チーム、薬剤師のチーム、消防が救護所から撤退し救護所として縮小化に至った時期でした。このような背景もあり、「ビックパレットふくしま」内に避難されている方と仮設に移られた方への対応の両側面の混在や救護所の新体制やあり方が問われている状態であったと思います。

また、仮設入居が決まっているのに入らない（入れない）問題や居住フロアによっては湿度やプライバシーの問題があること、今の時期は、熱中症、食中毒などの危険性が伴っていることも注目されていました。（毎日の申し送りで、発熱者、感染症・消化器症状の有無が報告されていました）

我々の役割は深夜業務でしたが、この時期なると来所者が頻繁にあるわけではなかったのです。かといって定期的な時間でラウンドやおむつ交換、体位交換、食事介助をする時

期でもありませんでした。救護所を開所する6時から来所者のバイタルサインや血糖測定、準夜からの特記者のラウンド、仮設住居でのバイタルサイン（必要者）を保健師さんと行ってきましたが、避難者の数の減少に伴い救護所で扱う件数も減少しているようでした。ただ、中には、身体の不調を訴える方、支援を遠慮する高齢の方、精神疾患がある方、家族と上手く交流ができない状態にある方など、身体的な救護とは異なった事実も目の当たりにしました。なので、我々は深夜業務内で得られた情報を次につなげる役目も並行して行ってきました。

毎日、多くの方が避難所から出て行かれました。しかし、七夕の短冊に原発の終息の希望や家に戻りたいという祈りを目にすると、避難者・救護所には『したくても出来ない』ジレンマなどの想いがあるのではないかと想像でき、とても切なくなりました。実際に仮設住居へ入居できない状態にある方も存在しています。今後、救護所そのものが閉鎖されていくと思いますが、どのように支援していくのかという点とボランティアの入り方・支援方法も変わってくるため、まだまだ推移を見守っていく必要があると感じます。

そして、保健師さんも避難者であるということを実感します。一見支援者であると捉えられてしまうかもしれませんが、震災の体験、原発による避難という同じ町民（仲間）であるということをおぼろげに忘れてはいけません。震災以前より、避難者との関係性の構築があったからこそ、自分の町・村の方々がいるということは、震災直後から本日まで診療所を含め多くの支援に尽くさなければならないという使命感やパワーがあったからだと思います。なので、保健師さんらが頑張りすぎないためにもボランティアが必要であったと思います。

最後になりましたが、自分たちも原発の問題に直面しているにも関わらず、笑顔で迎え入れてくれた保健師の皆さん、他の多くの医療チームの皆さん、コーディネーターの矢野さん、本当に感謝しています。

我々はたった1週間という短い時間にしか過ぎません。それで、何もかも知り得たとも思えません。苦しみ、悲しみと同時に復興に向けた期待、希望も何気ない会話の中から感じる事が出来ました。私たちの役目は、ボランティアに行っただけではなく、これを多くの人に伝えていく使命と今回の震災を教訓に自分たちの地域が被害にあったときに対処できる具体的な対策を練ることだと思っています。

ありがとうございました。